

ミクロ熱研究センターの発展を願って

日本熱測定学会長 矢野 彰

私ども熱測定にかかわる者にとって、関 集三先生のご尽力で大阪大学に設置された「化学熱学実験施設」は、重要な拠り所として、その活発な活動に敬意と信頼を寄せて参りましたが、早くも10年の時限を迎えられ、このたび「ミクロ熱研究センター」として新たに再発足されました由、誠に慶びに堪えません。私もいささかの経験がありますが、地味な分野の大学の研究施設が時限を迎えると、その継承、再発足を認めてもらうには大変な苦勞が伴うもので、ここ両三年、菅先生が懸命のご努力を傾けて居られることに敬意を払って参りましたが、文教予算の厳しい中で、以前に増して充実した施設として再び設置が認められたことは、ひとり大阪大学のためのみならず、全国の熱測定関係者にこの上ない朗報と慶賀申し上げる次第です。これも関先生、菅先生を中心とする本施設関係の先生方の、これまでの成果が根幹をなしていることは言うまでもありません。

ところで日本の産業構造が高度情報化社会へと激しく移り変わる中で、地球の環境容量との関連もあり、エネルギーとマテリアルの面での制約条件をどのように克服してゆくかということがキポイントになり、この複雑なからみ合いの中で、広い意味での化学があらゆる産業のキテクノロジーであることが、最近ますますはっきり認識されてきたように思います。その化学も今や分子、原子のレベルに立入っての解析、制御が要請される時代で、ミクロ熱測定の果たすべき役割は甚だ大きいと言わねばなりません。

洩れ伺うところでは、新しい施設はバイオカロリメトリーにも重点を置かれる由、最近のバイオ分野の進展はめざましいものがあります折から、熱測定の立場から積極的なアプローチをはかられる意義は、誠に大きなものと期待しております。

折しも本年は、熱測定討論会が第25回を迎え、記念討論会として大阪大学で開催されますが、ミクロ熱測定関連の研究が多数発表され、また記念行事の一つとして、バイオカロリメトリーの国際ミニシンポジウムが組み込まれております。今後とも、この新しい施設が、日本熱測定学会の中核的な研究の場として、いよいよ発展されるよう願うものであります。